

ILSI Japan 活動報告<2022>

バイオテクノロジー研究会

1, 2 月	特に進捗なし。
3, 4 月	<p>■3月10日に第1回目会議を開催（リモート会議）</p> <p>(1) ERA プロジェクト調査報告書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第59号の勉強会：10報の論文をレビューし、意見交換を行った。 <p>(2) 報告事項</p> <p>① 臨時部会長会議の報告・研究助成金について</p> <ul style="list-style-type: none"> →今年度の研究助成金について辻本事務局長より説明。 <p>② 2022年4月の International Society for Biosafety Research (ISBR) シンポジウムに ILSI Japan として参画することについて</p> <ul style="list-style-type: none"> →COVID19により ISBR 開催が 2023年に延期。引き続き先生の派遣を調整中であることが報告された。 <p>③ 2021年度開催 WS の、「イルシー」誌への投稿状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際的なリスク評価方法から考える日本の生物多様性影響評価とデータトランスポートビリティ ・バイオテクノロジー応用微生物を利用して発酵生産された食品添加物・食品等の安全性審査に関する WS 開催報告 →それぞれ、「イルシー」誌 149号、150号に投稿されることが共有された。 <p>④ International Organization for Standardization (ISO) 委員再任について</p> <ul style="list-style-type: none"> →橋本名誉会長が再任。様々な検査方法に関する議論の現状を報告いただいた。
5, 6 月	<p>■6月27日に第2回目会議を開催（味の素(株)本社会議室およびリモートのハイブリッド会議）</p> <p>(1) ERA プロジェクト調査報告書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第60号の勉強会：10報の論文をレビューし、意見交換を行った。 <p>(2) 報告事項</p> <p>① 2023年4月の International Society for Biosafety Research (ISBR) に ILSI Japan 参画 準備進捗</p> <ul style="list-style-type: none"> → COVID-19により ISBR 開催が 2023年に延期。2023年の4月30日～5月4日に Saint Louis で開催されることが報告された。総計6名の先生の参加を検討中：発表予定の2名の先生方（平塚先生、児玉先生）へは参加既に了承済。その他、2名の先生方（田中先生、徳永先生）についても、参加了承済み。 <p>② 2022年バイオテクノロジー応用微生物を利用して 発酵生産された食品添加物・食品等の安全性審査に関する WS 準備進捗</p> <ul style="list-style-type: none"> → 6月に講演予定の先生と面談。高度精製品申請にかかわる議論をする方向で一致。秋ごろにハイブリッド開催、参加費については検討中であることが報告された。 <p>③ 2021年度開催 WS の、「イルシー」誌への投稿状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> → 「イルシー」150号に 2021年 WS の報告である「組換え微生物を用いた添加物・食品の安全性評価の科学的な考え方について」が掲載されたことが報告された。
7, 8 月	特に進捗なし。
9, 10 月	■9月16日に第3回目会議を開催（味の素(株)本社会議室およびリモートのハイブリッド

	<p>ド会議)</p> <p>(1) ERA プロジェクト調査報告書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 61 号の勉強会：10 報の論文をレビューし、意見交換を行った。 <p>(2) 報告事項</p> <p>① 2023 年 4 月の International Society for Biosafety Research (ISBR) に ILSI Japan 参画 準備進捗</p> <p>→2023 年の 4 月 30 日～5 月 4 日に Saint Louis で開催される当会に総計 6 名の先生を派遣予定。準備状況について紹介された。パラレルセッションでは千葉大学 児玉先生、横浜国立大学 平塚先生にそれぞれご発表いただくことで決定した。</p> <p>②2022 年バイオテクノロジー応用微生物を利用して発酵生産された食品添加物・食品等の安全性審査に関する WS 準備進捗</p> <p>→2022 年 12 月 2 日に開催、明治大学 中島先生、千葉大学 児玉先生にご登壇いただくことが報告された。</p> <p>③その他</p> <p>→「イルシー」誌がパスワードで制限された電子書籍化されたことが報告された。</p>
11, 12 月	<p>■12 月 2 日に 2022 年バイオテクノロジー応用微生物を利用して発酵生産された食品添加物・食品等の安全性審査に関する WS 開催。報告は「イルシー」154 号に掲載予定。</p> <p>日時： 2022 年 12 月 2 日 (金) 14:00-17:30</p> <p>場所：Zoom</p> <p>参加登録者：106 名、(当日参加者 94 名)</p> <p>プログラム</p> <p>14:00-14:10 ご挨拶と本 WS の意義について (ILSI Japan バイオテクノロジー研究会 加村 澄子)</p> <p>14:10-14:30 遺伝子組換え食品・添加物に係る制度について (厚生労働省医薬・生活衛生局食品基準審査課新開発食品保健対策室 豊田 美紀 専門官)</p> <p>14:30-14:50 遺伝子組換え食品等の食品健康影響評価にについて (内閣府食品安全委員会事務局評価第二課 松原 芳幸 課長補佐)</p> <p>15:00-15:40 遺伝子組換え微生物を利用して製造された添加物・食品とレギュラトリーサイエンス (千葉大学大学院 園芸学研究院 児玉 浩明 教授)</p> <p>15:40-16:10 高度精製食品・食品添加物 最近の審査の現状について (明治大学 農学部農芸化学科 中島 春紫 教授)</p> <p>16:20-17:20 総合討論 高度精製食品・食品添加物の現状 について情報提供 (ILSI Japan、一部外部有識者)</p> <p>17:20-17:30 ワークショップのまとめと閉会のあいさつ (ILSI Japan バイオテクノロジー研究会 加村 澄子)</p> <p>■12 月 7 日に第 4 回目会議を開催 (味の素(株)本社会議室およびリモートのハイブリッド会議)</p>

(1) ERA プロジェクト調査報告書

・第 62 号の勉強会：10 報の論文をレビューし、意見交換を行った。

(2) 報告事項

① 2023 年 4 月の International Society for Biosafety Research (ISBR) に ILSI Japan 参画 準備進捗

→2023 年の 4 月 30 日～5 月 4 日に Saint Louis で開催される当会に総計 6 名の先生を派遣予定。準備状況について紹介された。パラレルセッションでご発表いただく千葉大学 児玉先生、横浜国立大学 平塚先生と年明け会議を行うことが報告された。

② 2022 年バイオテクノロジー応用微生物を利用して発酵生産された食品添加物・食品等の安全性審査に関する WS 速報

→2022 年 12 月 2 日に開催。100 名以上の参加登録、Zoom ログイン数も 90 名以上であった。厚生労働省、食品安全委員会事務局、明治大学 中島先生、千葉大学 児玉先生にご登壇いただき、積極的な議論が行われた。

③その他

→11 月 14 日に開催された部会長会議の概要および当研究会は 10 万円の活動予算申請を行ったことが報告された。

→2023 年度も年 4 回の研究会の開催、ERA 報告書も年 4 回計 40 報とすることが確認された。